

令和5年度 第4回 紀南高等学校 学校運営協議会 議事概要

日 時	令和5年11月30日(木) 19:00~20:55
場 所	紀南高等学校会議室
出席者 (敬称略)	西、岩本、山本、長阪、廣畑、田尾、二村、立嶋、中嶋、舩屋 (県教育委員会) 大屋、加藤 (紀南高校) 辻、込谷、湊千、松本
欠席者 (敬称略)	辻本、産屋敷、湊健
議 事  主な意見	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 第3回紀南高等学校学校運営協議会議事概要について</p> <p>(2) 学校の取組について</p> <p>(3) 第7回紀南地域新高等学校ワーキング会議概要について</p> <p>(4) 第2回紀南地域高等学校活性化推進協議会について (令和6年度開始の通級による指導、三重大学の取組を紹介)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通級の指導対象としては、発達障がいだけでなく、知的障がいの生徒も入れるべきではないか。</li> </ul> <p><u>⇒県教委に確認中。</u></p> <p>2 協議事項</p> <p>(1) 令和5年度対話集会について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師は30人ほど確保したい。</li> <li>・昨年度の反省では、申し込みをしていない人が当日遅刻してきたため、当日班の割り振りに困った。</li> <li>・講師の方に確認して、最後に生徒の言葉を聞く時間を設けてもらいたい。以前は生徒の声から施設や設備を改善したこともあった。</li> </ul> <p><u>⇒生徒には「総合的な探究の時間」の事前学習で、講師の方への質問を考え、答えをもらうように指導している。意見交換する時間を設けるように学年に伝える。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓会総会で、今後の紀南のあり方を話したいという声があった。生徒会と同窓会が話す機会を設けてほしい。</li> </ul> <p><u>⇒(後日回答) 生徒会と相談して設定を検討する。</u></p> <p>(2) 新高等学校の系列・コースについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合進学コースをもっとわかりやすくできないか。コミュニケーションコースはニーズも多いので設置するのはありがたいが、教員配置は大丈夫か。</li> </ul> <p><u>⇒地域の要望が多いので設置したコミュニケーションコースについては、教員配置を教職員課へ要望していく。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2系列5コースを公表するのであれば、産業マイスター系列の「エキスパートと</li> </ul>

して」の表現を「エキスパートを目指して」などに変える方がよい。

- ・地域の人にわかりやすい系列やコースにしてほしい。違いがわからない。
- ・くくり募集はしないのであれば、木本校舎の総合学科の内容も教えてほしい。わかっていたら、中学生が違いを理解して選択しやすい。
- ・ワーキング会議の資料では2校舎の学びが出ていないが、協議しているのか。

⇒9月以降、ワーキング会議の総務部会や教務部会で協議してきたので、コンセプトに基づいて系列やコースは決定している。

- ・5コースの偏りが出ることも予想される。紀南校舎の少数派の生徒にも対応してもらえるのか。紀南校舎の存続が難しくなるのは、どんな場面が想定されるか。

⇒(県教委)20人を2年連続で割れたら、募集停止となるという原則があるが、学校の状態は見ていく。令和12年度は40人規模で減るが、13年度はまた戻るため、この1年を乗り切るような新高等学校の活性化が理想。現在他地域へ流出している2割の生徒が留まっていることが目標。地域の意見を聞いて、2校舎合わせて特徴をアピールすることが大切なので、アイデアをいただきたい。

- ・現在ある両校の指定校や学校求人継続するのか。

⇒現時点では回答できない。

- ・紀南校舎が1クラス残ったこと以上は、生徒が集まるような高校にしていってほしい。そのためには、管理職のリーダーシップが大切。

⇒令和12年度に向けてしっかりと準備したい。

(3) 学校運営協議会委員より「学校に登校しづらい思いを持っている生徒の実態調査委員会」の設置について

- ・調査や改善は大切だが、教職員に依頼するのは厳しい。定期的にサポートする人たちに頼む方がよい。
- ・誰に対しての提案で、委員会の構成メンバーはどうするのか。

⇒(委員)学校運営協議会の部会、または会長の諮問機関として設置したい。現場の問題なので、教職員をメンバーとしたい。教職員と議論するところから始めたい。現在の紀南高校では、生徒の自己肯定感を育成していく具体性が見えない。

- ・学校では、自己肯定感の育成を行事や部活動等すべての教育活動でやることになっている。外部のものがやるものではない。

⇒不登校生徒への対応は、担任はじめ学校全体や県教委で連携し、学校マネジメントシートにも自己肯定感の育成を掲げて実践している。教職員の思いは一致している。教職員が中心となる委員会の設置は、現在の体制では難しい。

### 3 連絡事項

- (1) 年度末学校評価アンケートについては、12月に保護者アンケート、その結果を資料にして2月に学校運営協議会委員のアンケートを依頼します。